

# 共同研究「ワイン産業を通じた地域創生」 2017年度活動報告

渡 部 純

近年、日本におけるワインへの関心は、ますます高まっている。様々なメディアが積極的かつ頻繁にワインを取り上げており、社会の中で、ワインについての知識や情報は、日ごとにといえるほどのスピードで、急速に拡大しているようにも思われる。しかし、そのような情報の増大に比して、これを学問的に掘り下げ、位置づける努力は、未だ、十分行なわれていないのが現状である。我々の研究会は、このような状況に鑑み、微力とはいえ、力を合わせて、学際的な研究活動を継続してきた。

この研究会では、主に二つの柱をもって研究を行なった。

第一は、日本におけるワイン関連規制の現状の検討である。原産地呼称制度という新制度については、すでに、昨年度以来調査研究を重ねてきている。本年度は、それに加えて、酒税という制度の面からワインへの規制を理論的に検討するとともに、都市部において展開が始まりつつある小規模ワイナリーの実情と可能性について検討を加えた。

第二は、中国の現状の調査である。当研究会の発足時から、中国ワインの重要性は認識されていた。消費地・生産地として大きな潜在的可能性を秘めていると考えられるからである。本年度は、中国での最大のブドウ生産地にして、新規の大規模ワイナリー建設が続いている新疆ウイグル自治区への現地調査を行なうことができた。これまで、この地域での学術的な調査は容易ではないところがあったが、今回関係各位のご協力をいただき、おそらく日本人研究グループとしては初めて当地のワイン事業の実態調査を行なうことができたのは、まことに僥倖ともいえるものであった。

研究会参加メンバーそれぞれの研究業績は、本研究年報に個別に掲載されているものを参照されたい。以下には、本年度に開催した研究会日程についてのみ概要を記しておく。

## 第1回研究会

日 時：2017年4月19日

報告1 「酒税課税のあり方～その1・ビール課税のあり方～」

渡辺 充 副学長・法学部教授

報告2 「中国新疆ウイグル自治区における調査研究について」

毛 桂栄 法学部教授

共同研究：ワイン産業を通じた地域創生

研究会調査合宿 中国新疆ウイグル自治区

日 程：2017年9月12日～9月19日

第2回研究会

日 時：2017年12月6日

報告1 「中国ワイン大手の市場化と国際化：フィールド調査報告を兼ねて」

毛 桂栄 法学部教授

報告2 「街中ワイナリーと間近なワイン：日本のワイン産業の構造変化」

鍛冶 智也 法学部教授